



新規就農した農業者によるマルシェを初開催！

市の半農半X事業を経て、令和6年度に新規就農した3人も参加

生駒市で新規就農した若手農業者6組7人を集めた「いこまニューファーマーズマルシェ」を、市主催で初開催します。これは新規就農者が、地域とのつながりが少ないことが多く、農産物を販売する場所が限られているという課題の一つを解消するために企画。新規就農した若手農業者に販売する場を提供し、みんなで応援しようと実施するものです。また同時に市民へ若手農業者を紹介する機会とし、農業へ関心を持ってもらえることを目指します。

■ マルシェの概要

- ◇とき・ところ 7月12日（土）16：00～18：00 頃、アントレ広場（生駒市谷田町1600）
- ◇出店農業者 6組（裏面参照）

■ マルシェの特徴

- ◇市内で新規就農した若手農業者だけが集まって野菜を販売…令和6年度に新規就農した4人と、その4人の研修先や同じ農業学校で学んだなど、ゆかりのある先輩新規就農者3人がタッグを組んで販売。販売経験などのレクチャーや、つながりづくりの機会の創出も目指します。
- ◇市半農半X事業の卒業生も参加…上記新規就農4人のうち3人は、いこまファーマーズスクール※で農業を学び、その後、本格的に実践経験を積んで就農した出店者です（同スクールからは、令和6年度にもう1人新規就農者を輩出）。
- ※…農業以外の仕事をしながら農業を始めたい人（半農半X）や自給農や将来生業として農業に取り組みたい人など向けの講座。令和4年度からスタートし、現在の受講生も含めると90組137人が受講（うち新規就農者は4人）してきました。また応募倍率も2～5倍と人気の取組です。
- ◇新規就農者をみんなで応援…マルシェを訪れた人に、新規就農者を応援してもらえるように、顔写真や簡単なインタビューをホームページや会場に掲示予定。野菜が買える場所も記載し、イベント後も顧客とのつながりが継続するような工夫をしています。

■ <参考>その他の地産地消の取組（一例）

- ◇青空市場…市公共施設やJAなどで、生産者が採れたての野菜を定期的に販売しています。
- ◇自治会への移動販売…市内13自治会向けに、月1～2回、自治会館などを訪れ販売しています。
- ◇いこまレストラン…生駒の生産者と飲食店をつなぎ、新メニューを市民に試食してもらったり、本市の農業について、理解を深めてもらうワークショップを行ったりしています。
- ◇学校給食への野菜の納品…市内農家が作った野菜を学校給食に納品しています。

■ **出店農業者** ※はファーマーズスクール卒業生(いずれも1期生)

◇**生駒彩園/松本光則さん(就農1年目)**

生活の拠点だった生駒で新規就農し、自分の野菜が地域の人たちの選択肢の一つになればという思いで野菜を育てている。スーパーなどの量販店で見かける野菜とは、少し違う個性がある野菜を育てることで、お腹を満たすだけのものではなく、毎日、食卓に上がっても、飽きがこないような野菜づくりを心がけている。



◇**いこま満天ファーム/山本昌史さん(就農5年目)**

野菜づくりには「モノづくり」と共通するおもしろさがあり、前職の経験も活かしつつ、試行錯誤して自分の農スタイルを確立させていきたいと考えている。また、地元豆腐店で廃棄になるはずだった「おから」から有機肥料を作るのがこだわり。地元の資源を有効利用したおいしい野菜づくりを心がけている。



◇**こぐまファーム/青山資史さん・佳子さん(就農1年目※)**

ファーマーズスクールで学び、周りから刺激を受ける中で、生駒で農業を始めたいという思いを募らせる。個人事業主として様々な事業をしながらも、農業を核にした「半農半X」を目指す。安心・安全の野菜づくりをモットーに栽培期間中に化学肥料や農薬を使わない「やさしい農業」を心がけている。



◇**平沼農園/平沼善朗さん(就農14年目)**

土づくりにこだわり、漢方薬の残さなど植物性のたい肥を使い、ふかふかの土を作る「炭素循環型農法」を実践中。土づくりをしっかりと行うことで肥料を抑え、環境への負荷を低減させたいと考えている。これからの夢は有機栽培の割合を増やすことと地産地消を推進していくことだ。



◇**南田原ファーム/本多季美さん(就農1年目※)**

調理師として生駒市の給食センターに携わってきた。子どもたちにより安全な野菜を届けたいという想いを突き詰め、野菜を作ることに。子育て中で、家事にも追われる日々だが、化学肥料を使わないまろやかでうまみのある野菜を作り、いずれは学校の芋掘りなどの体験学習などにも貢献したいと考えている。



◇**未来農業研究所/森田広幸さん(就農8年目)**

作った野菜を家族が「おいしい」と喜んでくれたのが就農を決めたきっかけ。季節に合わせてさまざまな野菜を作るが、中でもミニトマトと白ネギはとことんこだわって栽培。高山の田園風景に惚れこみ、生駒で農業を始めた。その風景がいつまでも続くように、これからの担う農業者を育てていきたいと意気込む。



この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市農林課(課長 松井) ☎0743-74-1111(内線 2150)